

# 参加募集のご案内

## 2022年デザイン視察研修

3美術館(いずれも日本ベスト美術館100選に選定)と弘前ねぶたまつり 2泊3日



富山県デザイン協会では、デザイン（建築や環境、都市開発、物事の仕組み、ブランディング、経営、製品開発など）で産業や地域経済を活性化させた優れた先進地の実例を視察いたします。現地に蓄積された歴史や芸術文化の魅力を感じ、実際に自分の目で確認することでデザインの最先端・本質を学ぶ旅です。

ご出発日 2022年8月5日(金)～8月7日(日) 2泊3日

ご旅行代金 **お一人様 129,000円**

(※)但し、GoToトラベルキャンペーンが実施された場合、

(例 お支払い実額 109,000円 さらに 地域共通クーポン 2,000円分 進呈)

(※)但し、GoToトラベルキャンペーンを利用する場合、

「新型コロナワクチン3回接種証明」または「PCR検査陰性証明書」が必要となる場合がございます。

募集人員 **30名(最少催行人員20名)** **締切日 7月15日(金)** (7月22日(金)旅行代金入金期限)

### ■旅行条件 旅行代金に含まれるもの

- ・交通費 新高岡－(JR)－富山－(JR)－八戸、新青森－(JR)－富山－(あいの風とやま鉄道)－高岡
- ・貸切バス (大型 45席 バック付同行)・宿泊 **和室または洋室** (十和田ホテル) **洋室** (スマイルホテル弘前) 利用 (禁煙)
- ・食事 朝2回 昼2回 夕1回+弁当2回 ※飲料別途 ・新高岡駅より添乗員同行費用 ・観光入場料金
- ・旅行傷害保険料金

### ■お取消料金

旅行開始日の前日から起算して14日前～7日前までは旅行代金の20%、3日前まで30%、前日50%、当日100%

### ツアー参加申込方法

下記「参加申込書」に必要事項をご記入いただき、FAXにて送信してください。

「参加申込書」到着後、参加費ご請求書等を送付させていただきます。

申込先：公益社団法人 富山県デザイン協会 **FAX 0766-63-7141**

〒939-1119 高岡市オフィスパーク5 TEL 0766-63-7140

### デザイン視察研修「3美術館(いずれも日本ベスト美術館100選に選定)と弘前ねぶたまつり」参加申込書

公益社団法人 富山県デザイン協会 行

お名前	フリガナ	性別	生年月日(西暦)	年齢
		男 女	年 月 日 生まれ	歳
現住所	〒	勤務先		
	携帯番号	所在地 〒		

1泊目「十和田ホテル」での部屋割希望(数に限りがあるためご希望に添えない場合もございます)

- ・4名1室
- ・3名1室
- ・2名1室
- ・1名1室
- (○で囲んでください)

※追加料金については2ページ目の「宿泊予定施設」欄をご確認ください。



## 【コースの見どころ】

8月5日（金）

### 八食センター（昼食場所・各自）

八食センターは創業30年以上のどでか市場。全長170メートルに約60店舗が並び、水揚げされたばかりの新鮮な魚介類・青果・精肉、乾物や珍味・お菓子・お酒・日用雑貨まで幅広く取り揃え、お土産をはじめとした八戸の名物がすべて揃う。



### 十和田市現代美術館

作品のために作られた“箱”が点在する美術館。箱の内外にオノ・ヨーコ、フェデリコ・エローラら国内外33組の作家による38点の作品が恒久設置されているほか、企画展示室も。床一面にマイケル・リンの絵が描かれたカフェも含め、大きな窓で街に開かれた構成。隣接するアート広場には草間彌生の作品があり、歩道にはマウントフジアーキテクツらのストリートファニチャーが。アートな散歩を楽しめる。



彫刻家 名和晃平の個展「生成する表皮」を開催（予定）は、名和の作品に共通して見られる制作概念を表しており、名和の大学院生時代の作品「Esquisse」や、レンズ効果で視点の移動とともに表皮が映像的に姿を変える代表作の「PixCell」シリーズといった過去作から、同展のために制作された最新作「Biomatrix (W)」や、「White Code」シリーズの新作まで幅広く展示することで、名和の活動の変遷を振り返ることができる。

十和田市現代美術館は十和田市のシンボルロード「官庁街通り」に面している。

通りの両側には長さ1.1キロメートル幅36メートルの道には165本の松と156本の桜が4列の並木を作り、春には桜、冬にはイルミネーションが彩りを添える。



### 奥入瀬溪流

日本を代表する景観地のひとつ。十和田湖から焼山までの約14kmの流れで、国指定の特別名勝および天然記念物。豊かな樹木や十数か所の滝と、千変万化の美しい流れや様々な奇岩・奇勝が見事な溪流美を作り出しており、四季折々の自然美を堪能できる。水の透明度が極めて高いことに加えて、希少な苔類が生い茂っているのも特徴。



8月6日（土）

### 十和田湖遊覧船

十和田湖遊覧船は、十和田湖の景色を湖上から眺めることのできる船です。十和田湖は約20万年前の火山噴火によってできた湖で、水深は327m。十和田湖全体と中湖（なかのうみ）のそれぞれが噴火口となっていて、二重のカルデラが複雑な地形を形作り、変化に富んだ風景が展開します。内側のカルデラとなる中山半島と御倉半島に囲まれた中湖では、まさに2つの噴火口で湖がつけられていることを感じることができます。



### レストラン山崎（昼食場所）★食べログ・フレンチ EAST 百名店 2021 に選出

洋館とフランス料理の街ひろさきを代表するレストラン。本場フランスでの修行を積み、地場の安全な食材を使用した弘前フレンチを提供したいと考えるオーナーシェフ・山崎隆氏。木村秋則氏の奇跡のりんごや長谷川自然豚などを使った、スローフードを提供している。



## 弘前れんが倉庫美術館

弘前れんが倉庫美術館は、エストニア国立博物館などの設計で知られるパリ拠点の建築家・田根剛が日本で初めて手がけた美術館。明治期に建設され、近代産業遺産として青森・弘前の風景を形作ってきた元シールドル工場の建物を活かした。改修工事にあたっては「記憶の継承」をコンセプトに掲げ、できる限り煉瓦倉庫の素材を活用し、その姿を留めることを前提として未来に残すことを意図した。2020年7月にオープン。

「池田亮司展」(予定)では、高さ15mの吹き抜けの大空間にプロジェクションを行うほか、各展示室の映像や音響が時に結びつきながら、煉瓦倉庫を改修した当館ならではの建築空間と作品とが共鳴／共振します。



## 弘前 洋館・教会巡り

明治初期から外国人教師を招いて英語教育に力を入れ、又キリスト教伝導の先進地でもあったため、多くのハイカラ洋館や教会が建てられた。旧弘前市立図書館をはじめ、ルネッサンス様式の青森銀行記念館、ノートルダム寺院似の日本キリスト教団弘前教会など、明治・大正時代のモダンな洋風建築が数多く残っている。



弘前城の南西には「禅林街」が広がり、杉の並木道沿いに33の曹洞宗のお寺が並んで建てられている。吉永小百合さんが出演するJR東日本のCMやブラタモリの撮影でも取り上げられ話題となった。

## 弘前ねぶたまつり (感染防止拡大を講じて開催予定)

弘前ねぶたまつりは1722年(享保7年)に初めて文献に登場してから、今年、300年という節目を迎えます。1980年(昭和55年)には重要無形民俗文化財に指定されました。弘前の城下町を練り歩く大小様々なねぶたには美しい日本文化を彷彿させる武者絵が描かれ、夜の弘前市を華麗に彩ります。毎年8月1日～8月7日にわたる7日間、総来場者数は約160万人にもものぼります。



弘前  
ねぶた  
300年祭

## 8月7日(日)

### 白神山地ビジターセンター

世界遺産「白神山地」の魅力をつぶさに紹介するとともに、自然との共生をテーマに考察・学習する施設。センター内には、デジタルプロジェクターを用いて圧倒的な迫力と臨場感で白神山地の四季を紹介できる映像体験ホールと、ブナについての総合解説、白神山地の動植物、自然遺産・自然保護活動などを紹介する展示ホールが設けられている。



## 鶴の舞橋

鶴の舞橋は平成6年、岩木山の雄大な山影を湖面に美しく映す津軽富士見湖に、日本一長い三連太鼓橋「鶴の舞橋」として架けられました。全長300メートルもの三連太鼓橋はぬくもりを感じさせるような優しいアーチをしており、岩木山を背景にした舞橋の姿が鶴が空に舞う姿に見えりとも言われ、また、橋を渡ると長生きができるとも言われています。夜明けとともに浮かび上がる湖面の橋の姿や、夕陽に色づく湖と鶴の舞橋は絶景で、季節の移り変わりと共に多くの観光客たちの目を楽しませています。吉永小百合さんが出演するJR東日本のCMの撮影でも取り上げられ話題となった。



## ねぶたの家 ワ・ラッセ ねぶたミュージアム

毎年、祭本番に出陣した大型ねぶたを常設展示し、触ることができるパーツねぶた、制作者の特徴が表れるねぶた面のなど所狭しと展示・紹介されています。館内には三味線・笛・ねぶた囃子が流れる中、実物のねぶたに囲まれる「ねぶたの海」を歩いているような感じがします。ねぶた祭の世界にどっぷりと浸ってください。



## 青森県立美術館

展示室の一部に、土壁と土の床を使うという大胆な構成で話題になった青木淳の設計は、隣接する縄文集落跡「三内丸山遺跡」からの着想。発掘現場のトレンチ（壕）のように、地面が幾何学的に切り込まれており、その上から白く塗装された煉瓦の量塊が覆いかぶさっている。中でも、シャガールの連作《アレコ》のために作られた縦・21m、高さ 19m の「アレコ・ホール」は圧巻。恒久設置の奈良美智《あおもり犬》も人気が高い。棟方志功や成田亨ら青森県ゆかりの作家のほか、荒川修作やカンディンスキー、マティス、レンブラントなどを収蔵している。



「ミナ ペルホネン／皆川明 つづく」(予定)では、デザイナーの皆川明(1967-)が設立したブランド、ミナ ペルホネン。流行に左右されず、長年着用できる普遍的な価値を持つ「特別な日常服」をコンセプトとし、日本各地の生地産地と深い関係性を紡ぎながら、オリジナルの生地からプロダクトを生み出す独自のものづくりを続けてきました。多義的な意味をもつ「つづく」をキーワードに、本展覧会では、生地や衣服、インテリア、食器等のプロダクトに加えて、デザインの原画、映像、印刷物、皆川明の挿絵など創作の背景を浮き彫りにする作品群や資料も併せて展示いたします。ミナ ペルホネンと皆川明のものづくりとその思考をこれまでにない規模で紹介する本展覧会は、私たちの日常生活やその先にある社会の仕組みについて新たな視点と示唆をもたらすことでしょう。